



Title	東大阪市における入院勧告による入院患者の現状 (2024年)
Author(s)	松山, 美紀
Citation	2025年度ストップ結核パートナーシップ関西 第13回 ワークショップ「これからの結核対策を考える : 新 しい退院基準にどう備えるか」. 2026, p. 42-46
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/104110
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

東大阪市における入院勧告による入院患者の現状(2024年)

2026年2月7日(土)
東大阪市保健所 感染症対策課
松山 美紀

1

新登録患者の状況

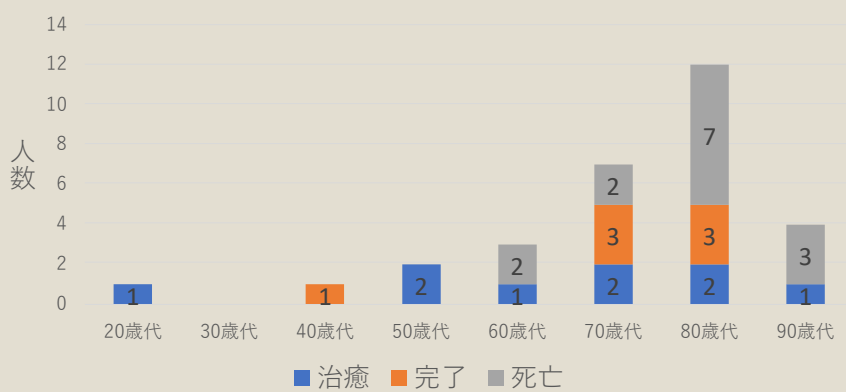
	人口	新登録患者					罹患率	潜在性結核
		患者総数	内訳					
			活動性肺結核			活動性肺外結核		
			喀痰塗抹 陽性	その他結核 菌陽性	菌陰性 その他			
2024年	485,357	67	31	13	11	12	13.8	36

入院勧告による入院患者 33名

2

入院勧告による入院患者の状況①

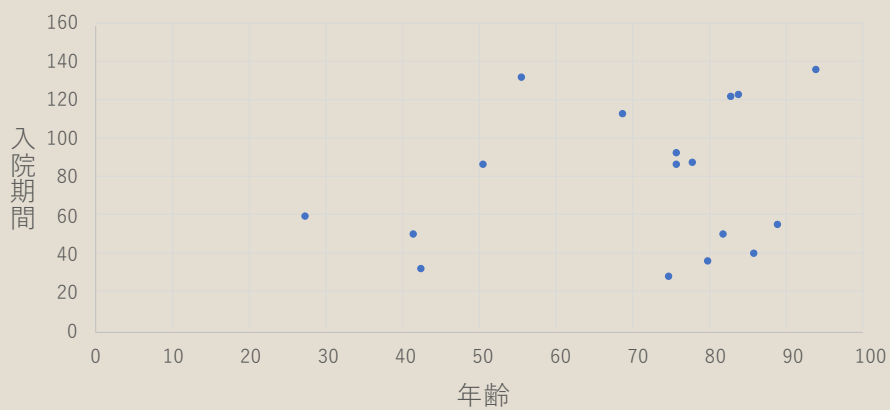
年代別治療成績(n 31)



3

入院勧告による入院患者の状況②

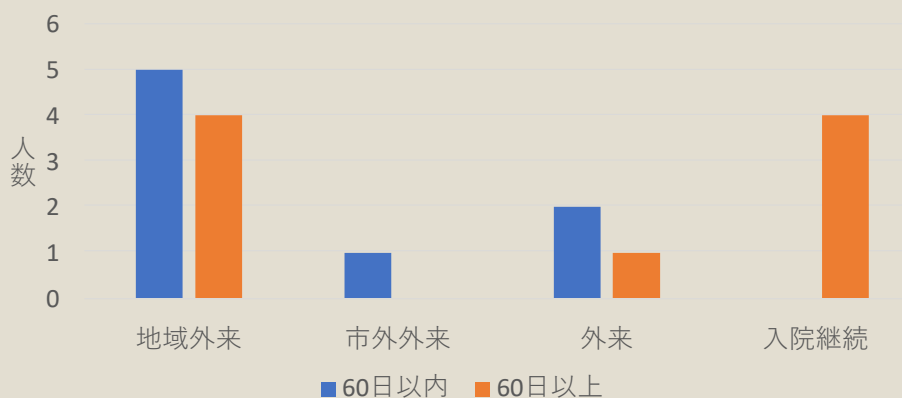
入院勧告による入院期間(死亡除く) n17



4

入院勧告による入院患者の状況③

入院勧告解除後の医療（n17）



5

入院勧告による入院患者の状況④

入院勧告期間60日以内の患者の傾向(8名)

- ・独居（6名）または二人世帯（2名）
- ・退院先は自宅(8名)
- ・治療開始1か月以内に菌陰性化（8名）
- ・無職で生活自立または別居家族のサポートあり（3名）
- ・就業制限対象外の職業に従事しており、退院後すぐに復職（2名）
- ・退院後、就業制限解除まで2週間から1ヶ月半程度かかっている（3名）

6

入院勧告による入院患者の状況⑤

入院勧告期間60日以上の子の傾向(9名)

- ・独居（2名）または二人世帯（4名）または施設入所者（3名）
- ・退院先は自宅（6名）または施設（3名）
- ・塗抹陽性が遷延（5名）
- ・副作用による薬剤調整（3名）
- ・入院勧告解除後も入院継続（4名）

7

まとめ

- ・入院勧告による入院期間は平均78.76日（中央値87日）で、最も短い患者が29日、最も長い患者が136日であった。
- ・入院勧告解除後は、約6割の患者が地域もしくは元のかかりつけ医療機関につながり治療を継続した。
- ・塗抹陰性化が早く、副作用の出現が少ない患者は入院期間が短かった。
- ・退院後、就業制限により退院前の生活にすぐに戻れない患者がいる。
- ・入院勧告解除後も入院継続した患者がいる。

8

保健師の視点からの課題

- ・ 入院時から退院を見据えた情報収集と調整
- ・ 地域に結核医療を提供できる医療機関の確保
- ・ 個々の患者に必要な療養環境の検討と調整